



秋田看護連盟ポリナビワークショップで講演(4月29日)



上・右/「石川県看護連盟総理官邸見学」関係写真を撮影する同場所。下/第2次安倍内閣



志をひとつにする看護職の議席を獲得し 機動力を高める時です!

高階 恵美子 参議院議員



自民党大会で参議院議員選挙必勝ガンパローコールを担当(3月17日)

総理官邸を訪ねた際、艶やかに庭を彩る花菖蒲が目にとまりました。脳裏には、時機到来の語が浮かびました。さつそく花言葉を調べたところ「よい知らせ、心意気」のこと。

短夜のみぎり、政治の中枢で咲くのに相応しいことに加えて、この花は、私たち日本看護連盟にも吉報をもたらそうとしているように思え、しばし心が和みました。

その日は近し。示すは看護のイシダ。

厚生労働委員会の理事に就任 改善を訴えていきます

4月から5月にかけての参議院は、理不尽な理由付けによる環境委員長解任と複数の委員会における法案審議の

先延ばしが相次ぎ、まさしく神経戦の連続でした。5月16日に今年度予算が自然成立した後は、6月26日までの短期間で、確実に重要法案を成立させることが重点となっています。

そのような中、私は新たに厚生労働委員会の理事に任命されました。会期中での交代は難航する委員会運営を是正し審議の円滑化を図るための措置です。果たして十分な成果を出すことができるのか、自問自答しながら、しかし精一杯、政務にあたらせていただいております。

参議院が滞る理由は一般に、与党第一の議席が議員定数の1/3しかない、いわゆる「ねじれ」のためだと説明されています。けれども私は、それに付随する数々の理由にも着目し、改善



厚生労働委員会で質問(3月21日)



国家基本政策委員会理事として臨む党首討論(4月17日)

としての痛切な願いです。一人ひとりの苦しみや悩みを知り、それを同じ言葉で他者へと伝え、ともに解決していくこととする同志が一人でも増えていくことを、絶えず期待し続けています。

看護問題解決へのさらなる段階に 力強く踏み出しましょう

仲間づくりは、私が常に心がけていることです。例えば看護問題対策員連盟の活動もそのひとつです。地道な勧誘を経て、現在の会員数は30名(自民党国会議員全37名のうち)に増えました。これは改めて言うまでもなく、

各地の選挙等において看護連盟の会員が、常に熱心に支援を続けていることに対して、各々の議員が感謝し、これから看護問題に取り組んでいこうとする意思の現れです。地道な活動の積み重ねを経て、お互いの信頼感が醸成されたからこそ、議連の規模もこのように大きくなって参りました。

これからはいよいよ、双方が連携し、現場の問題をつぶさに見聞きして諸々の課題解決に取り組んでいく段階へと進みます。それを一層力強くするためには必要なことは、志をひとつにする看護職の議席を獲得し、機動力を高めることです。

医療福祉職出身議員も 立ち上がっています!

現在国会では、医系33名(歯科医師8名を含む)、薬系4名、看護系2名、検査系2名の医療職議員が活動しています。また福祉系の議員も複数います。国会議員の背景とえば、議員二世、秘書経験者、政治記者、弁護士などが話題にあげられます。しかし現在は、最前線で社会保障を実現している各職種が自ら国政に関与するようになってきています。これは、次代にフィットする社会保障制度体系の再構築を急が

なければならぬという、各々の分野の専門家たちの極めて現実的な危機感による変化ではないかと思えます。社会保障に携わる者はみな、現状の問題点を明示し、効果的な制度改革について提言する責務を負っている、それを果たすためにいま行動しよう、と立ち上がったのだと。また選択する側もまた、現場をよく知る者たちに解決の端緒づくりとその牽引役とを希求するようになっていく。だからこそ、社会保障の担い手たちが信頼を勝ち取る割合が高くなってきた。現代の日本人は、それほどまでに政治の停滞を憂い、時代に合った、次代を先取りする政治への目利きができる。このように考えていくと、私は7月21日が待ち遠しくなりません。

7月に向けて 高らかに声を上げていきましょう

看護職一人ひとりも、自らの価値と政治との関わりを熟知し、近未来のために現状を変えることができる存在として、各々の声を発するときです。お互いを信じて、いまでできることを着実に実行していくことではありませんか。私たちが、国政を健全化する。お互いの結束は、看護のイシダ!